

地域支援だより

きらりNet



令和6年8月23日

第141号

秋田県立秋田きらり支援学校

地域支援部

肢体不自由及び病弱・身体虚弱特別支援学級のオンラインミーティング 『きらり☆サロン』に参加してみませんか

「きらり☆サロン」は、県内の肢体不自由及び病弱・身体虚弱特別支援学級担任を対象にした、オンラインによる相談・意見交流の場です。月1回程度のペースで開催しており、秋田きらり支援学校だけでなく、特別支援学級の担当者同士で情報交換をする機会にもなっています。昨年度は、7月から2月まで7回実施し、延べ30名の先生方が参加してくださいました。

本校では、県内の肢体不自由及び病弱・身体虚弱特別支援学級を訪問しておりますが、児童生徒支援や授業づくりの悩みは1度で解決できるものではありません。どうぞお気軽にそして継続的にご活用ください！

(文責：藤原恵理子)



肢体不自由と病弱の特別支援学級に分かれて行っています。

<このような話題が挙げられています>



「自立活動の内容はこれでいいの？」
「進路指導をどう進めよう？」
「宿泊学習や修学旅行の参加の仕方、配慮点は？」
「学習の支援の仕方、もっと工夫できそうだけど・・・」

<昨年度参加された先生方の声>

・同じ環境で同じ悩みのある先生方と話ができてよかった。安心する場だった。
・他校の取組を参考に、担任する児童の支援のヒントになった。



・進路に関する情報を得る機会となった。
・具体的に解決できるような方法を教えていただき助かった。



生徒が楽しみながら主体的に課題に取り組む自立活動の実践

生徒の実態と困難さ

- 中学部2年 Aさん。治療とリハビリのため、秋田きらい支援学校に転入。中学校への復学を目指していた。
- 体幹失調のため、歩行はU字ウォーカーを使用。手の震え、目と手の協応動作、事物を関連付けて言語化すること、発音を安定させて話すこと等に困難さがあった。

指導計画を立てるに当たって

- ①移動能力の向上
 - ②作業に必要な動作と円滑な遂行に関する能力を高めることを自立活動の主なねらいとした。
- Aさんが必要感を感じ、目的をもって楽しみながら取り組める学習を設定した。
- 隣接の医療療育センター作業療法士による支援を受け、状況を確認しながら進めた。

指導内容と学習課題

①に関する内容

→U字ウォーカーでの歩行、階段昇降

②に関する内容

→手芸、レジンクラフト、ミニラック組み立て、パソコンによるカード作り、タブレット端末での文章作成・検索



文章を作成する Aさん

指導の実際 *②に関する指導について

• まひによる手の震えが落ち着いてきた頃、Aさんはものづくりの課題に取り組みました。ミニラックを組み立てる課題には、部品を正しく接合する、工具を使って金具を締め付けるといった両手の協応した動き、説明書の読解などの能力が求められます。ある時、Aさんは似ている部品の取り違えに気付かず、次の手順に進みましたが、うまく部品がはまらなかったことで間違いに気付きました。そして、やり直して完成させました。小さな失敗を経験し、修正をしながら自分でやり遂げたことがAさんの

達成感につながりました。「決められた手順のある仕事が、好きかもしれない。」という気付きも得ました。

- もう一つ、Aさんが夢中になったのがレジンクラフトです。レジンクラフトは専用液を型に注ぎ、UVライトで硬化させる作業です。色や形、組み合わせる金具等によって様々な作品ができ、工夫する楽しさを味わえます。この楽しさを味わったAさんは週末すぐに家族と材料を買いに行き、いくつかの作品を完成させて周囲の人に見せていました。ものづくりや人との関わりを楽しめることはAさんの強みです。他者から認められ、自己肯定感を高めることにもつながります。

今、つまずいている人も、いろいろなことを楽しみながら課題に向き合い、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲を高めていってほしいと思います。(文責：小林紀子)

* Aさんは現在中学校に復学しています。

教育専門監のつぶやき

「ラックの組み立て」課題のメリットは、「ミスに自分で気付ける」「何度もやり直しができる」「完成(ゴール)が自分で判断できる」ところです。ともすれば、上手くできないことで投げ出す可能性もあります。最後まで取り組めたのは、Aさんの好きなこと(ものづくり)を生かした課題を設定したことで完成させたい気持ちの方が上回ったのでしょう。制作する中で、自分でできる工具の使い方や部品の押さえ方を知ったり、「自分に向いているかもしれない」と気付いたり、肯定的な自己理解につながった事例です。(文責：藤原恵理子)